

舟山

発行者
幸田町立南部中学校
鈴木 一也
第118号

充実した二学期

先日、たまたま学区にいられた岡崎の方から「通り過ぎる南中生が十人連続で元気な挨拶をしてくれて感動した」というお電話を頂きました。この話を聞き、とてもうれしく感じました。

さて、十一月も半ばを過ぎ、二学期も終盤を迎えています。コロナ禍ではありましたが、二学期は、多くの行事を行うことができました。特に、全校合唱「南風」や南中ソーランの披露・授業参観などでは、保護者の皆様方には、多数のご参加ありがとうございました。また、十一月十五日・十六日に行われた防犯パトロールでも、地域の皆様方にご協力いただきありがとうございました。



防犯パトロール

南中ソーランを通して

三年 古田明香音

授業参観日に、南中生全員でソーランを行うことができました。私はリーダーとして希凜さんと一年生にソーランを教えました。練習時間が少ない中で最後までやりきることができたのか、不安もあつたけれど、一年生が私たちの想いに応えようと必死についてきてくれたおかげでやりきることができました。急な変更にも文句も言わずについてきてくれた一年生に感謝したいです。自分たちが必死にやると、周りも必死についてきてくれることを学ぶことができました。

本番は、本当に一瞬でした。少しさびしさもあつたけれど、南中の先輩方が受け継いできた伝統に関わられて、本当にうれしかったです。ソーランリーダーに挑戦して得た経験をこれからも大切に生活していきたいです。



全校で踊ったソーラン

南部中開校四十周年

一年 田中蒼太

南部中学校開校四十周年という節目の年。今まで挨拶や南中ソーラン、全校合唱「南風」などさまざまな伝統をつないできてくれた先輩たちのおかげで四十周年を迎えることができました。私は、歴代の先輩や今の私たちを支えてくださる全ての人に感謝したいです。そして、今の三年生の先輩がいなくなったら、南部中学校の核となる二年生として、次は自分たちが伝統をつないでいく番です。今までの伝統を大切にしながら、新しい伝統を築いていきたいです。

そして、この四十周年という節目に野球部としても、チーム目標の「県大会出場」を決めました。今までの先輩方が「南中野球部」として残してくれたものを胸に、十一人の仲間たちと開校精神「やりぬく心」を大切に、戦い抜きます。



40周年記念航空写真

授業参観を終えて

一年 山本莉凜

中学校に入学してから、初めての授業参観がありました。内容は道德で、うさぎとカメの話でした。小さいころから馴染みのある話だったので、どんな授業になるのかわくわくしました。

授業を受けてみて、うさぎとカメが競い合う中で見せた姿は、物語の中だけでなく、私たちに当てはまる姿だと思います。カメのように、自分のよさや魅力だけでなく、短所や苦手なところまで自己理解を深めることを大切にしたいです。自己理解を深めることで、「私は何をしたいのか・何を目指しているのか」といった目標ややりたい姿も、より具体的なものになると思います。常に自分のイメージをふくらませながら怠けたり油断したりすることなく、自分に磨きをかけていきたいです。



授業参観での一コマ

避難訓練を通して

二年 新井銀平

今年度四回目の避難訓練は不審者対応訓練でした。ただ、いつもと違い自分のクラスに不審者役の人が入ってきました。訓練だったので事前に来ることは聞いていましたが、とても緊張しました。入ってきた瞬間にぞわぞわとした変な空気が教室に流れ、クラスみんなが早く逃げようという気持ちになったのがわかりました。

訓練が終わった後に、講師の先生方からご指導を受けました。その中で、「不審者は挨拶を嫌う」という言葉が印象に残りました。地域の方と普段しているコミュニケーションが犯罪のない明るい街にしていることがわかりました。

日頃からしている挨拶をこれからも大切に、南部中だけでなく、地域も明るくしていきたいです。



不審者から避難する生徒

知ってほしい森の楽しさ

一年 志賀 連

一年生は六栗西山森の道へ出かけました。高所枝払いを見せていただいた方から、森の保全について、「山の管理をする人が少ない」というお話を聞きました。確かにこの仕事はカッコいいと感じたものの、こういう仕事に就きたいと考えたことはありませんでした。もともとたくさんの人に知ってほしいです。

また、初めてモルックをしました。チームで応援し合い、考えてスキットルを倒した時には歓声があがって、すごく楽しかったです。球技の得意な人だけが楽しめる、というイメージでしたが、見ても楽しめました。どんどん広まり、いろいろな人たちにも楽しんでもらいたいと思いました。私は週に一回ぐらい、妹と森の道に出かけていますが、自然があふれとてもよいところですよ。たくさんの方に来たいと思います。



西山森の整備活動

生と性を考える

学校保健委員会を終えて

三年 星野雄衣

「生と性を考える」のテーマの下、私は学校保健委員会で多くのことを学びました。「性」と聞くと、恥ずかしさを覚える感覚も多少ありましたが、学年全員で真剣に向き合いました。講義を終え今回の学びは、人生において必要不可欠なことだと心から思いました。

私が深く心に残っているのは、「命をつないでいく」という言葉です。子どもを生み、育てるという行為には、「責任」と「覚悟」、そして「正しい知識」が必要だと知りました。中学生の今、正しい知識を得ることができてよかったです。自分の言動に責任をもちたいと強く思いました。また、これまでに大事に育ててくれた両親にも感謝したいと思えた学校保健委員会でした。



おむつを替える生徒

生き方講演会で学んだこと

二年 中根美桜

「置かれた場所で咲きなさい」この一言を、講演会の中で中山先生にかけていただき、今ある環境は当たり前ではないということ、成功を収めようとするときには、強い気持ちと努力が必要と改めて気づかされました。

私は将来、医療に関する仕事に就きたいと思っています。そのために今はいろいろなことに挑戦し、視野を広げたり、自分の将来のための勉強を一生懸命やり続けていきたいと思っています。

また、中学校生活は今しかできません。だからこそ、二年生七十八人の仲間と生活できる時間を大切にしていきたいです。そして、今いる場所で必死に努力を続け、これからもかけがえない思い出を、大好きな仲間と一緒につくっていききたいです。



熱心に耳を傾ける生徒